

行政視察等報告書

令和 7 年 (2025 年) 1 月 20 日

境港市議会
議長 永井 章 様

経済厚生委員会
委員長 吉井 巧

下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	令和7年1月14日（火）～16日（木）
2 視 察 等 先 及 び 内 容	福岡県宗像市役所「オンデマンドバス、立地適正化計画について」 福岡県宮若市役所「『ふれタク』AI デマンドタクシーについて」 福岡県岡垣町役場「重層的支援体制整備事業について」
3 視察等議員	委 員 長 吉井 巧 副委員長 柊 康弘 委 員 田口 俊介 米村 一三 景山 憲 松本 晶彦 荒井 秀行（体調不良により欠席）
4 総 経 費	合計（6名）365,370円 一人当たり60,276円 （合計額には荒井委員欠席によるキャンセル料3,710円を含む） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

視察先対応者：

令和7年1月14日（火）

【福岡県宗像市役所】

都市再生部 理事兼都市再生課 課長 内田 忠治
都市再生部 都市政策課 参事 日野 友和
都市再生課 地域政策交通係 係長 平島 佳世子
都市再生課 地域政策交通係 主任主事 江本 雅基
都市計画課 主幹兼都市計画係 係長 舩越 健樹
都市計画課 都市計画係 主任主事 日下部 裕之

内 容：「AI 活用型オンデマンドバス『のるーと』の取組
～路線バスからオンデマンドバスへ～」
「宗像市立地適正化計画について」

①AI オンデマンドバス運行事業

宗像市では、交通空白地区をカバーするため、日の里地区で、令和3年から実施。2年間の実証運行の後、令和5年度に本格運行に移行しています。導入前には、予約が必要であることへの抵抗感もあったそうですが、導入後は周知活動の効果もあり、否定的な意見はないとのことでした。

また、「市役所スマホお助け窓口」での周知なども実施されていました。

②立地適正化計画

宗像市のこの計画では、4つの基本的な方針により都市のコンパクト化を図り、人口減少、高齢化社会に対応した利便性が高く、効果的で効率的な都市経営を実現し、長期的にも都市活力が維持できる持続可能な都市を目指すものです。

● 4つの基本方針

- ① 拠点設定による周辺への都市機能集積に向けた方針
- ② 都市機能及び公共交通の利便性が高い地域への居住誘導に向けた方針
- ③ 拠点・中心を連絡する公共交通の充実に向けた方針
- ④ 災害に強いまちづくりに向けた方針

これらに沿った宗像市の現状や課題、都市機能誘導区域の設定基準の考え方などを学びました。

令和7年1月15日（水）

【福岡県宮若市役所】

産業観光課 課長 齊藤 潔
産業観光課 課長補佐 田代 朋

内 容：「『ふれタク』AI デマンドタクシーについて」

宮若市では、6路線の「乗合バス」と2つの地域で「ふれタク」を運行しています。この「ふれタク」は、令和4年8月から東部地域での運営を『利用者の予約に応じて、AI（人工知能）によって最短・最適な運行経路を決定し、運行する乗

合交通事業』として実施しておられます。

運行開始後、利用者は徐々に増えているそうですが、課題としては、

- ① ランニングコストの増加分の負担をどうしていくか
 - ② 併用して運行している「乗合バス」をどのように運行していくか
- といった点などが、挙げられるそうです。

令和7年1月16日（木）

【福岡県岡垣町役場】

福祉課 課長 船倉 憲一郎

福祉課 人権・地域福祉係長 杜川 雄一

岡垣町社会福祉協議会 地域福祉係長 江口 周一

内 容：「重層的支援体制整備事業における支援について」

岡垣町では、地域住民が抱える課題が複雑化・複合化し、従来の支援体制では対応が困難なケースに対応するため、この事業によって分野の垣根を越えて支援を行うことで、課題解決に向けた支援活動を行なっています。

また、地域の社会資源を活用・創出することにより、地域住民が孤立せず、つながりを持って生活できるよう、町と社会福祉協議会が連携して取り組みを進めています。

☆注目される取り組み

- ① 相談に来た町民が、窓口をたらい回しされる事のないよう、同一フロアの同一コーナーに、福祉関係 4 課を隣接して配置
- ② 『重層的支援体制整備事業』として規定されている次の 5 つの事業を遂行するために、支援会議を定期的に開催
 - ① 包括的相談支援事業
 - ② 参加支援事業
 - ③ 地域づくり事業
 - ④ アウトリーチなどを通じた継続的支援事業
 - ⑤ 多機関協働事業
- ③ 支援会議は、大きく分けて、次の 2 つで構成
 - ① 福祉関係 4 課と社会福祉協議会から選出されたコアメンバー
 - ② 必要に応じて参加を求めるケースメンバー
- ④ 具体的な支援のフローは、各課・各機関で受けた相談の中で、複雑化・複合化したケースについて、支援会議の協議を経て、それぞれの担当が単独または連携して解決にあたる仕組み

所 感：

境港市では、今年 4 月から AI を用いた予約型乗合バス「みなとーる」を本格運行する予定です。宗像市と宮若市から伺った、AI 活用型デマンドバス事業の先行自治体の状況（傾向）や課題など、大いに参考になるものと考えます。併せて立地

適正化計画において、コンパクト化と利便性向上を図り、持続可能な都市を計画してする際に、地域公共交通の重要性と災害に強いまちづくりの必要性を再確認できました。

また、重層的支援制度事業について、複合化した課題の解決にむけた体制づくりに大いに参考となる事業展開がなされている事例を伺いましたが、本市の新たな取り組みとして取り入れるには、相談体制に取り組める物理的スペースの確保や、担当者間の連携・コミュニケーションを深める事が不可欠であると感じました。